



Red Hat 3scale API Management 2.7

オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.7 向けリリースノート

Red Hat 3scale API Management 2.7 向けドキュメント

Red Hat 3scale API Management 2.7 オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.7 向けリリースノート

Red Hat 3scale API Management 2.7 向けドキュメント

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2023 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Release_Notes_for_Red_Hat_3scale_API_Management_2.7_On-premises.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、Red Hat 3scale API Management 2.7 で解決された問題、関連ドキュメント、および既知の問題に加えて、最新のテクノロジープレビュー機能について説明します。

目次

はじめに	3
第1章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.7.1: パッチリリース	4
1.1. 解決された問題	4
第2章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.7	5
2.1. 新機能	5
2.1.1. 主要な機能	5
2.1.2. その他の機能	5
2.2. テクノロジープレビューの機能	6
2.3. 解決した問題	6
2.4. 既知の問題	6
2.5. ドキュメント	7
2.6. 3SCALE の変更点	7
2.6.1. 非推奨の機能	8
2.6.2. 今後の変更	8
2.6.3. その他のリソース	8

はじめに

本書は、Red Hat 3scale API Management 2.7 および関連のパッチリリース向けのドキュメントです。

第1章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.7.1: パッチリリース

本項は、オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.7.1 向けドキュメントです。

1.1. 解決された問題

- 既存のアプリケーションプランを変更してバックエンドレベルでメソッドを無効にした場合に、想定したとおりに機能するようになり、エラーメッセージが表示されなくなりました ([JIRA #4013](#))。
- 3scale toolbox が適切にコマンドを認識するようになりました ([JIRA #4009](#))。
- バックエンドパスを使用し、第 2 の Routing ポリシーを設定した場合に、APIcast のパフォーマンスが向上しました ([JIRA #4016](#))。
- 順番を変更するためにポリシーをドラッグする間、ポリシーが表示された状態を維持するようになりました ([JIRA #4017](#))。

第2章 RED HAT 3SCALE API MANAGEMENT 2.7

本項は、オンプレミス型 Red Hat 3scale API Management 2.7 向けドキュメントです。

2.1. 新機能

2.1.1. 主要な機能

- API を管理するための新たな考え方 API プロダクトが導入されました ([JIRA #1714](#))。これには、以下に挙げるメリットがあります。
 - 顧客がアクセスする API ([プロダクト](#)) から内部 API ([バックエンド](#)) を分離することができる。
 - 任意の数のバックエンドを1つのプロダクトとして公開することができる。[スタートガイド](#)に記載の手順に従って、プロダクトおよびバックエンドに関する最初の手順を実施することができます。
 - 任意のプロダクトの任意のバックエンドを、異なるサービスレベルアグリーメントで再使用することができる。
 - 1つのクレデンシャルセットを使用することで、顧客による複数バックエンドへのアクセスを単純化することができる。
- Camel ポリシーエクステンションの [APIcast ポリシー](#) での設定 ([JIRA #2696](#))。
- 3scale operator の機能が拡張され、OpenShift 4 システム上で 2.6 から 2.7 へのアップグレードが可能になりました ([JIRA #2378](#))。

2.1.2. その他の機能

- [APIcast Logging ポリシー](#) の改善 ([JIRA #2876](#))。
- [TLS Termination ポリシー](#) を使用して、サービスごとに TLS 証明書を設定できるようになりました ([JIRA #2897](#))。
- 新たな [APIcast Maintenance Mode ポリシー](#) により、一時的にトラフィックを無効にすることができます ([JIRA #3189](#))。
- OpenID Connect (OIDC) 用に、任意の JWT (JSON Web Token) クレームからクライアント ID を設定することができます ([JIRA #2264](#))。
- APIcast の新たな環境変数 [HTTP_KEEPALIVE_TIMEOUT](#) により、[keepalive-timeout](#) が有効になります ([JIRA #2886](#))。
- APIcast がサービス設定を読み込む際の、新たなレイジーローディング用オプション ([JIRA #3168](#))。
- バックエンドコンポーネント用 Prometheus メトリクスが追加されました ([JIRA #3176](#))。
- 直近に削除されたオブジェクトのステータスを確認するための、新たな API エンドポイント ([JIRA #3265](#))。
- Patternfly 4 が 3scale インターフェイスに統合され、ユーザーエクスペリエンスが向上しました ([JIRA #3028](#))。

- APIcast ポリシーチェーンの設定が不適切な場合のメッセージログが改善されました ([JIRA #2896](#))。

2.2. テクノロジープレビューの機能

- 高可用性 (HA) OpenShift テンプレートおよび評価用 (Eval) OpenShift テンプレート [JIRA #1168](#)。
- 3scale operator の機能: カスタムリソースを使用して 3scale テナント、API、プラン、制限、メトリクス等を定義し、それらを 3scale インストール環境に設定することができます ([JIRA #1798](#))。

2.3. 解決した問題

- **client_ID** および **secret** で使用することのできる文字の範囲が広がりました ([JIRA #1451](#))。
- 開発者アカウントの **Users** および **Invitations** タブに表示されていた誤ったエラーメッセージが修正されました ([JIRA #1142](#))。
- **OPENTRACING_FORWARD_HEADER** 環境変数を使用した場合に、APIcast が想定したとおりに機能するようになりました ([JIRA #1660](#))。
- **NGINX** ディレクトリーのパーミッションエラーに関して、APIcast のログが改善されました ([JIRA #1912](#))。
- APIcast URL Rewriting ポリシーに第 2 の URL アドレスを追加した場合に、管理ポータルに設定履歴と整合する情報が表示されるようになりました ([JIRA #1924](#))。
- APIcast からカスタムポリシーを削除した後、ポリシーチェーンに残りの項目が表示されるようになりました ([JIRA #3229](#))。
- API が無効なポリシーで更新された場合に、ポリシーの **Configuration** セクションの操作性が向上しました ([JIRA #3396](#))。
- URL Rewriting ポリシーで URI が変更された場合に Routing ポリシーで生じていた問題が解決されました ([JIRA #3239](#))。
- 無効なメソッドを呼び出した時のメッセージが修正されました ([JIRA #3330](#))。
- toolbox を使用して API をコピーする際に、コピーした API にコピー元の API と同じマッピングルールのセットが含まれるようになりました ([JIRA #3356](#))。
- URL のパスにスペースがある場合に、マッピングルールがマッチするようになりました ([JIRA #3468](#))。
- **Update & Testing Staging environment** ボタンの機能が見直され、既存のポリシーに関して一貫した動作を維持するようになりました ([JIRA #3596](#))。

2.4. 既知の問題

- 既存のアプリケーションプランを変更してバックエンドレベルでメソッドを無効にした場合に、内部エラー (500 HTTP) のメッセージが表示されます ([JIRA #4013](#))。
- 3scale toolbox は、新たな **API プロダクト** 機能と部分的にしか互換性がありません ([JIRA #3502](#))。

- Zync の作成するルートは、DNS ルールに部分的にしか適合しません ([JIRA #2932](#))。
- 3scale で OIDC の認証フローを変更した場合に、Zync は 3scale アプリケーションの Red Hat Single Sign-On (RH-SSO) クライアントを更新しません ([JIRA #3025](#))。この問題を回避するには、以下の代替案を使用してください。
 - 既存のアプリケーションの場合には、3scale アプリケーションを更新します (説明部分の変更など)。これが更新のトリガーとなり、アプリケーションの RH-SSO クライアントが変更されます。
 - 新規アプリケーションを作成すると、正しい認証フローで新たな RH-SSO クライアントが作成されます。
- ProxyRule が末尾のスラッシュを削除します ([JIRA #3872](#))。
- ポリシーの順番を変更した後、**Update Policy Chain** ボタンが機能しなくなります ([JIRA #3941](#))。この問題を回避するには、以下に示す 2 つの代替案があります。
 - ポリシーの設定を変更する (例: ポリシーを有効または無効にする)。
 - ポリシーを削除し、作成し直す。
- 管理ポータルで OIDC 認証フロー設定に加えた変更を保存することができません。この問題を回避するには、3scale Account Management API の OIDC Configuration Update エンドポイントを使用します ([JIRA #4162](#))。

2.5. ドキュメント

サポートされる設定

- アーティクル [Red Hat 3scale API Management Supported Configurations](#) で、3scale 2.7 のサポート対象設定に関する最新情報を確認してください。

セキュリティ更新

- [Red Hat セキュリティアドバイザリー](#) ポータルで、3scale 2.7 のセキュリティ更新に関する最新情報を確認してください。

アップグレードガイド

- お使いの 3scale システムを 2.6 から 2.7 にアップグレードするには、デプロイメントに応じてそれぞれ [テンプレート](#) および [operator](#) の手順を参照してください。

ドキュメントの変更

- 3scale の用語に関する新たな [用語集](#)。
- [Using the Developer Portal](#)を見直し、[デベロッパーポータルでの API の提供](#) に名称変更しました。
- [API のバージョン管理](#) および [API の認証](#) は、[API ゲートウェイの管理](#)に移されました。

2.6. 3SCALE の変更点

このセクションでは、3scale 2.7 の非推奨の機能と将来の変更点を列記します。

2.6.1. 非推奨の機能

- 本リリースでは、OpenAPI Specification 1.2 (旧名称: Swagger 1.2) との互換性が非推奨になりました。このバージョンを使用する API 仕様は、3scale の今後のリリースではサポートされない予定です。
- [3scale 2.6](#) で発表したように、Adyen の支払いゲートウェイは 3scale 2.7 以降サポートされません。完全にサポートされる支払いゲートウェイ (Stripe および Braintree) のいずれかに移行することを推奨します。

2.6.2. 今後の変更

- 2017 年 2 月以降、コードプラグインは API のインテグレーション設定としてはサポートされていませんが、このオプションはまだ管理ポータルに表示されています。今後のリリースでは、この設定を 3scale から完全に削除する予定です。
- Self-managed APIcast のデプロイメントとしては、テンプレートベースのインストールが現在サポートされている方法です。次のリリースでは、OpenShift 4 との組み合わせで唯一サポートされるメカニズムとして、新たな Self-managed APIcast operator が利用可能になります。
- 現在、**Proxy Update** を使用すると、設定が更新されたステージング環境用に、新たな APIcast 設定バージョンが作成されています。ただし、今後のリリースでは、これが変更されます。ユーザーは、この目的のために新たな **Proxy Config Promote** エンドポイントを使用する必要があります。

2.6.3. その他のリソース

- サポート対象設定の情報については、[Red Hat 3scale API Management Supported Configurations](#) のアートを参照してください。